



広報

昭和62年

1月1日

(毎月1日・15日発行)

ごじょうめ

No. 555

謹賀新年

五城目城

年頭にあたって

五城目町長

加賀谷 力司

新年おめでとうございます。

輝かしい昭和六十二年の元旦を迎え、過ぎし年の皆様の
大いなるご健闘、ご活躍に敬意を表し、新しい年の幸多き
ことを心から祈念申しあげます。

おかげをもちまして、皆様の絶大なるご協力のもと、三
十一世紀を目指した田園都市づくりは順調に推移し、殊に、
昨年は懸案でありました屎処理施設の建設、及び馬城橋
の架替工事に着手し、それぞれ今年中に完成することにな
っており、馬城橋については、単に交通機能面だけでなく、
環境、景観をも考慮に入れた本町にふさわしいシンボル橋
として生まれ変わる予定であります。

また、これまで定住環境の計画的な整備をすすめている
中で、本町の特性を生かした個性的な公営住宅の建設をは
じめ、中心となる公共施設の整備も恵まれた自然と伝統文
化に調和させながら、都市的な機能を兼ね備えたものとし
て計画どおり達成されているほか、国、県、町道や広域的
な基幹道路網の整備による交通輸送体系が整いつつあるこ
とにより、年々観光客も増加傾向にあり、町の活性化と個
性ある町として注目を集め、本町の産業、経済、文化面に
好影響をおよぼして参っております。

今、私たちをとりまく情勢は、長寿社会、高度情報化、
国際化が著しく進展するなど、各方面にわたり新しい潮流に
向かって進んでおりますが、本質を見極め、進取の活力を
もち、行政サービスと民間活動の望ましい相互関係を作り
あげながら、地場産業を振興し、都市と共生する交流事業
をすすめる、教育、文化、経済面での活性化をはかり、長寿
社会に対応した施策を推進し、福祉の充実に努め、新しい
世紀を目指した町づくりにより町民の皆様とご一緒に歩んで参
りたいと存じます。

皆様の町政に対する一層のご参加とご協力をお願い申し
あげるとともに、皆様の一層のご健勝を祈念し、年頭のこ
あいさついたします。



地域興しと

私たちの仕事

司会……あけましておめでとうございます。

座談会のテーマは「地域興しと私たちの仕事」ということで、町内で先覚的な仕事に取り組んでいる皆さんにお集まりいただきました。

ご存じのとおり、現在、全国各地で「地域興し」ということが叫ばれています。町でもシンポジウムの開催など、いろいろな施策を講じ、我が町の「地域興し」に努めております。

皆さんは、町内で新しい仕事に取り組まれているフロンティア精神の持ち主であると思います。皆さんの仕事に対する考え方や、町政に対するご意見など伺いすることに よって、我が町の「地域興し」の指針が見い出されれば幸いと思います。

をお願いします。

町全体が活気づく お話を期待…町長

町長……あけましておめでとうございます。新しい年を迎え、皆さんも新たな気持ちでそれぞれの仕事に取り組もうと、張り切っていることと思います。

今日お集まりの皆さんは、町の中でも異色の方々であり、興味あるお話を伺えるものと期待しております。正月でもありますし町全体が活気づき、町の連帯感がさらに深まるようなご意見、ご提案をいただければ幸いと思います。

司会……自己紹介ということ、皆さんの仕事の内容についてお聞かせください。

建具に「組子もの」を生かす……小川

小川……私は、木製の建具の製造を行っています。現在は、非常に多様化された時代で、商売もこれに対応していくことが今後の課題と言えます。仕事の特徴は「組子もの」を生かして、付加価値の高い製品を製造販売していることだと思います。

（組子ものⅡ工芸的な細工を取り入れた建具）

永沢……私は先祖から受け継がれてきた「御矢師」という弓の矢を作る仕事をしております。この仕事は、自然の竹を生かすことが大事です。幸い県内では良質の竹が自生しています。この竹は、秋田県が寒冷地ということからで

しょうか、九州などの地方とは違って粘り強く、材質自体非常に弾力性に富んでいます。この特徴を製品に生かすため技術的なことは父親から学び、また、昔の矢などを研究材料にするよう努めています。

品質面での努力が必要な時代…石井

石井……私は内川の黒土で「しいたけ」栽培を行っています。また、昨年からは「黒土しいたけ組合」の組合長をおおせつかっています。現在、組合員は八人おります。

昨年、町が進めている千代田区との都市交流事業実行委員のメンバーに加えさせていただきまし、雄和町の「ふるさと宅急便」の状況を視察することもできました。そのような会議や視察に参加して



永沢 則明
御矢師
四十五歳・築地町



小川 秀雄
建具製造業
五十二歳・中川原



加賀谷 力司
五城目町長

感じることは、都会の人も含めて、現在は本物志向というか、「よいもの」をほしがると傾向にあるということです。やはり、品質面での努力が必要だと感じています。

工事監督の仕事で 来て居着く……林

林……私はもともと秋田の人間ではなく、山口県の生まれです。五城目町には、町民センターと広域体育館の工事監督の仕事で来て、そのまま居着いたという訳です。

私の仕事は建築設計で、現在、住宅の設計を主にやっております、これからも続けたいと考えています。

佐藤……私も林さんと同じく五城目町の生まれでなく、仙北郡仙南村の出身です。

仕事は陶器を作ることです。この町に来て陶器づくりの仕事始めた訳ですが、最初は失敗も多く、ようやくなんとかできるという目処がついたような状態です。

嶋崎……私は大川で稲を主体にした施設野菜づくり、それに農作業の受託を取り入れた複合経営を行っています。野菜づくりは「ほうれん草」で施設内で栽培しています。とにかく、うまいものを作れば、おのずとお客がついてくる、それというのが私の信条です。また、農業は土づくりが大

切ということ、現在、土づくりに一生懸命頑張っています。

砂沢城の城下町を 想起し感銘……町長

町長……林さんや佐藤さんは町外で生まれ、この町に住むようになられました。また、永沢さんのお父さんも町外から移り住んだ方です。五城目町は、このように技術を持つ人、芸術家的な人を受け入れるなにかが昔からあったのではないかと、より、砂沢城（現五城目城）の下に、職人さんたちが方々から寄り集まって成り立った街であったことを想起して、皆さんのお話を聞いて感銘しています。

司会……皆さんが現在の仕事を選んだ動機、あるいは経緯についてお聞かせください。

建具の代金はお米 だった……小川

小川……私が五城目中学校を卒業した昭和二十三年は、日本経済が、どん底からようやくはい上がろうとしていた時であり、そのために国民が必死に努力していた時でもあったような気がします。

私の父は建具職人でしたが、父は上級の学校を卒業して営林署の役人になるように勧めてくれました。しかし、終戦後の食糧難は、今では想像も

できないほどで、私たちはおいしいご飯を腹いっぱい食べられない時代でした。父が仕事をすると、農家の人たちはお金の代わりにお米を持って来るものでした。私は、建具の仕事をするとお米を腹いっぱい食べる事ができるということから、父の弟子となつて建具をつくるようになりました。

挑戦の繰り返しで 三十七年……永沢

永沢……私が高校を卒業した昭和三十四年ころは、就職難の時代でした。当時、父は一人で矢づくりを行っていましたので、父の仕事を手伝ってやろうという気持ちで矢師の仕事に取り組みました。実際に矢づくりを行ってみると、なかなか難しく、繰り返し繰り返し挑戦しているうちに、三十七年もたつてしまいました。

林構事業で“しい だけ”栽培……石井

石井……私は、農業高校を卒業してから三年間出稼ぎをしていました。昭和三十八年に町から地域に、林業構造改善事業があるという話がありました。地域の先輩たちと話し合った結果、この事業で「しいたけ栽培」をやろうということになり、出稼ぎや日雇いの労働をやめて、しいたけを栽培するようになった次第です。

林……私の場合は、なぜ建築設計の仕事についたかと言われなくても、はっきりした理由はみつかりません。

私の家は漁師で、中学校のころは、経営者などとは違いますが、ある程度上に立つ人例えば船頭さんとか、現場監督さんなどになりたいという意識はありました。工業高校の建築家を卒業し、それから大阪の建築設計の専門学校に入学しましたので、私はそのころから建築の設計をしたいと考えていたように思います。

とにかく作るしかない……佐藤

佐藤……私は学校を卒業してから一時、地質調査の仕事をしていたこともあり、いつからかよくわかりませんが、焼き物に興味を持つようになりました。だまっていたとしても、とにかく作りたい、とにかく作るしかないと考えて、焼き物に取り組みました。

回転のよさにほれ て施設野菜……嶋崎

嶋崎……なにかをやらなければ農業というものがダメになる、暮らしていけなくなるのではと感じました。米は一年に一回、林業であれば何十年もかかる訳で、その点、施設野菜は一カ月程度の期間で播種から出荷まで行うことができます。また、一、二度の失

出席者（敬称略・順不同）



伊藤 卓治
五城目町助役
(司会)



嶋崎 幸喜
農業
三十五歳・大川



佐藤 秀樹
陶芸家
三十八歳・岡本



林 正和
建築設計士
三十八歳・広ヶ野



石井 章司
農業
四十四歳・黒土

敗ぐらいは、すぐ別の播種にチャレンジできます。このような回転のよさにはれて、ほうれん草の栽培に取り組みました。

決意した道を邁進してほしい：町長

町長……今日、お集まりの皆さんは、自営業の方々と、仕事に取り組まれた経緯はみな違います。しかし、自分の一生の仕事、将来の進む道を心の中にしっかり持つておると言うことは、大変に立派なことであると思いました。

過去において成功を収めた人、名を残した人は、大器晩成の人、若くして頭角を現わした人と両方ありますが、自分の進む道をしっかり持つていたという点では、どちらにも共通していると思います。林さんは、漁師の生活の中から、自分の気持ちを生かしたいという考えを持つたようです。また、永沢さんと小川さんは、ご自身の父親のことを話された訳ですが、私は、生まれ育った家庭の影響が大きく働いていたように理解しました。嶋崎さんが土作りの大切さをおっしゃっていました、人間を作る土は家庭です。よい土、よい家庭に生まれ育つたことを皆さんは感謝しなければならぬし、皆さんもまた、よい家庭をさらによくして引き継いでいってくださると思います。

なにはともあれ皆さんは、将来に向っての道をしっかりと決めておられますので、一生懸命その道を邁進していただきたいと思います。

司会……皆さんは、それぞれの仕事に頑張っておられますが、製品の需要、あるいは技術の修得など、現在の状況についてお話しください。また、ご自身の仕事に対する持論のようなものがありましたら、お聞かせください。

秋田技能社結成し 時勢に対応：小川

小川……昭和五十五年ころから低成長時代と言われるようになり、一般の建築業界にも一つの陰りが見え始めたところではないかと思っています。当然、住宅建設も新築は少なくなり、増改築に移ることが考えられました。

このような事態を切り開くには、情報の交換、技術の開発、いろいろな面での協力態勢が必要であると考えました。そこで昭和五十七年に任意団体ではありますが、私たち町内の住宅関連業者八人で「秋田技能社」を発足させました。五十九年には、通産省中小企業庁が進めている異業種組織化推進事業に沿って、法人化しました。まだこれといった実績はありませんが、町当局からも支援があり、一步一步活動を広げていきたいと考えています。

ています。

現在、町では本町の文化を受け継ぎ、木造住宅建築などを盛り込んだH O P E計画を進めており、私たちも仕事の中に秋田杉を十分に取り入れて、木のよさをお客さんにPRしていきたいと考えています。このことが私たちの仕事の活性化につながると思いますが、同時に「地域興し」に少しでも役立てばと考えています。

形、歩留まりなど 研究課題……石井

石井……昭和三十九年から植菌を始め、町からの援助などもあり、どうやら「しいたけ栽培」が軌道に乗ったと言え段階になりました。

栽培したいだけは、付近の温泉旅館や小売店、仕出し店などに出荷しているほか、町の朝市でも販売しています。朝収穫し、午前中に消費者に渡りますから、鮮度がよいと喜ばれています。しかし、形とか歩留まりを考えると、まだまだ研究しなければならぬと思っています。

仕事は八十五工程の積み重ね：永沢

永沢……町のパンフレットなどで紹介していただき、また、テレビで放映されたこともあり、近年急速に全国各地から注文がくるようになりました。

そして、「秋田県の矢は強い」「作りがていねいである」と評判もよいようです。

私たちは、現代のように大量生産的な作り方ではなく、一つひとつ工程を積み重ねていく昔ながらの方法で仕事をしています。私たちの矢づくりは、最少限八十五工程必要で、省略することはありません。

住宅設計理解されつつある……林

林……私が五城目に来た当時、地域の皆さんは、住宅の設計をするというのをあまり考えていなかったように思います。住宅を設計して設計料を払うくらいなら、大工さんにお願ひして一坪でも大きい家を建てた方がよいという考え方が、ほとんどだったと思います。

そういう考え方が少しずつ変わってきており、数年前からわずかでありますが住宅の設計を依頼される方が増えていきます。将来は、住宅設計で十分やっていけると思っています。

評価がよければ需要は増える……佐藤

佐藤……昨年の一月、始めての個展をリバーサイド磯ノ目で開くことができました。やはり、私の作る製品を知っていただいたことで、わずかで

はありますが「こういうものを作ってほしい」とおいでくださる方も見られるようになりました。

製品の需要は、皆さんに知っていただき、そして使っていただくことによって、よい製品であると評価されれば少しずつ増えてくると思っています。時間はかかると思いますが、現在できる範囲内で頑張っています。

足腰の強い農業を目指す……嶋崎

嶋崎……農業といえば、優遇されよいものだと思われがちですが、内情は食糧制度の見直し、アメリカ米の輸入自由化などの問題をかかえており、私たちは、米に関しては大変な危機感を持っています。また、施設野菜は、県外の大産地と競合し、価格の低迷が続いており、なんとかこの危機を乗り越えなければと頑張っています。

最近五城目町も都市化が進み、農作業を委託する人が多くなっています。私も農業経営にその受託を取り入れています。

これからの農業の目標として、生産物のコストダウンが非常に大事になってくると考えます。私の場合は、今盛んに設備投資を行っており、コストダウンに逆行しているような状態です。コンバインや乾燥機などに金をつぎ込んでお

りますが、将来はこのような投資をできるだけおさえた、足腰の強い農業を目指したいと考えています。

父は「技術は盗むもの」と……小川

小川……今は多様化の時代であり、私の仕事も時代の要求に応じていかなければなりません。また、大量生産から高級志向型に変わらなければならないと感じています。したがって、よい製品を作ることが必要の拡大につながると考えています。そのためにも、製作技術やデザインなどの勉強は大事で、生涯心がけなければならぬことだと思っています。

父はよく「技術は教えてもらうものではなく、盗むものだ」と言っていました。私は、県の建具展や全国の建具展などに機会あるごとに出かけ、何かを盗んでくるという気持ちで展示物を見て回ります。そして、それを自分なりに工夫して、これからの製品に生かしていくようにしています。

高段者ほど竹の矢を使う……永沢

永沢……現在、ジュラルミンやカーボンの矢を作る企業が増えていますが、日本人は感覚的なことを大事にし、高段者になるほど竹の矢を使うようになります。戦前は各県に一人か二人は

新春座談会



役場総務常任委員会室で開かれた新春座談会

いた矢師も今では少なくなり、また、いたとしても父のような年代の人です。若い矢師は全国的にみても少ないので、父親や昔の矢を手本にして、この仕事を大事に守っていきたいと思っています。

研修会を開いて技術を修得……石井

石井……これまでも講習会や研修会を開いて技術の修得に努めています。米と同じように品質のよいものを作るとなると、栽培方法に難点があったりしてなかなか実現できない状態です。

また、講習会などの後は、講師の方と今後の経営方法や将来の方針などについても話し合っています。

自分の能力の生かし方が問題……林

林……建築の設計は、お客さんとよく話し合ってからでないと行えない部分があります。ですから、お客さんの気持ちをどこまで深く知ることができるか、お客さんの考えの中にいかに自分の能力を入れることができるかが、私の仕事で大切なところだと思っています。

できるだけ天然のものを使用……佐藤

佐藤……私はいろいろ陶器を

見たり、さわったりして製作技術やデザインの修得に心がけています。また、古い陶器なども参考にします。

材料は、できるだけ天然のものを使うというのが私の考えです。で、釉薬や焼く土など、もう少し捜して製品の中に取り入れていかなければと考えています。

陶器の製作に取り組むようになって十二、三年になりましたが、自分で土を持ってきて製品を作るので手間がかかります。製作で根幹としていることは、ふだん飾っておくような陶器ではなく、使いやすい陶器、日常の生活で使用する陶器を作りたいということです。

失敗の繰り返し勉強に……嶋崎

嶋崎……さきほど小川さんが「技術は手とり足とり教わるものではなく、盗むものである」と言われましたが、私も出稼ぎ先の現場監督が、そのように話していたのを覚えています。「盗む」というのは言葉が悪いので、「拝借」といった方がよいかもしれません。本町の高崎に、指導農業者の館岡さんがおり、何回となく足を運びました。しかし、館岡さんは土など自分の栽培方法とは違っており、何回となく失敗を繰り返して、今では「私のほうれん草」と自負できるところになりました。失敗

の繰り返しは今ではよかったですと思っています。

注文どおりの矢づくりが誇り……永沢

永沢……今では、全国各地から自分自身にあった矢を作ってほしいとの注文があります。弓の強さ、その人の骨格、もちろん価格のこともありますが、いろいろな条件にあった製品を作れることが、私たちの特技であり、ジュラルミンやカーボンなどの大量生産の矢との大きな違いです。

また、矢は四本一組です。で、四本とも同じように飛ばなければなりません。それには、重さ、重心、太さ、竹の強さなどの条件をそろえる必要があります。

使用する人にあつた矢を作る、四本とも同じように飛ばす矢を作る、これが矢師の誇りです。そして、お客さんに満足していただけた時、私たちが作った矢が優秀であると注文者から仲間やお弟子さんに紹介していただけた時が、最大の喜びです。

毎月、木造建物の勉強会開く……林

林……現在、自分一人で設計をしているので、自分の仕事の善し悪しが、判断しにくいところがあります。自分の考え方がかたよっているのではなか、行き過ぎているのでは



よりよい「しいたけ」をもっと多く生産するのが目標～石井章司さん



自分の仕事同様、弓道の普及発展のために頑張りたい～永沢則明さん



業界関係者の方々とともに後継者の育成に力を注ぎたい～小川秀雄さん

しかし、自分の製品を皆さんが使ってくださいって「つかいやすかった」「よい食器だ」と言ってくれたときは、もつとうれいす。また、自分の考えとは別の使い方をしてくれて、それが思わぬ効果があったときなどもうれいす。物を作っていますと、自分一人よがりになることがありますが、五城目町に来て三年に

佐藤……私の仕事は、ろくろ成型から釉薬、焼成と三拍子そろわなければなりませんので、そうそううまくいくとは限りません。自分が思ったとおりの製品ができたときは、やはりうれいす。

同じ立場の話相手 がない……佐藤

強会を月一、二回開いています。このようなことから、少しずつ勉強していきたいと思っています。

ないかという心配があります。設計する場合は、建て主さんとよく話し合って進めますが、設計者側の考えが強くでる場合もあり、この問題でいつも悩みます。不断の勉強ということで、建築雑誌を読むほかに、新しい建物ができるのと見に行くようにしています。また、地域の住宅を考えるため、大工さん、左官屋さん、ペンキ屋さんなどと「木の会」という集まりを作り、木造の建物の勉強会を月一、二回開いています。このようなことから、少しずつ勉強していきたいと思っています。

五城目町の場合は、共同で生産物を選別し、共同で販売するという共通販販体制が確立しています。共販については、農協が集出荷場を造り、五城目町農協という形で市場に出荷しています。しかし、

今年も、転作面積が増え、その結果、施設野菜や露地野菜の栽培面積も増え、市場に出まわる野菜が多くなります。他県の産地との競合、価格の低迷が長びくのではと心配しています。

嶋崎……私は、現在、母と妻の三人で農業に取り組んでいます。農業のよさは、自然の中で家族と一緒に仕事ができるということなんです。同じハウスの中で家族で種をまき、肥料をほどこし、収穫する、このことが一番の幸せと感じています。採算にあうか、あわないかは別として、農業の魅力は、家族が力をあわせてやれることだと思っています。

家族一緒に作業が 農業のよさ……嶋崎

なりませんが、町内には私のように何かを作っている若い人がおらず、話し合えないのが悩みです。現在町内で彫刻の仕事をしている深谷さんも同じ意見で、作るものが違ってもよいから同じような立場の話し相手がいれば、お互い励まし合いながら、よい結果が生まれると思います。

町長……お話を伺っていて、皆さんはそれぞれ仕事に対して悩みを持っていることがわかりました。悩みがあるということは、問題意識を持っていることに当たっていることであり、それだけ一生懸命仕事に打ち込んでいる証しと考え、むしろ喜ばしい現象であると思います。

これからは「質」 の時代……町長

これからは農業も含めて、量の時代ではなく質の時代です。しかし「質」とはなんなのかとなると、その定義がむずかしく、はつきりしません。私は製材業にたずさわっており、高品質材ということでは

ただ言えることは、食べ物であれば健康に益するものが高品質であると思います。設計、陶器、建具などは、心を豊かにしてくれるもの、生活に潤いを与えてくれるものではないかと思っています。人間は心を持っていきますので、使えば使うほど愛着をおぼえてくるもの、ながめていれば心が昇華されるようなものが、高品質であると思います。

出荷しています。しかし、高品質材は時代によって、ふしのない木材であったり、年輪のつまっているかどうかにかかわらず、太ければ高品質材であったり、またその逆であったりして内容が変わります。



日本の中の五城目町を確立するために懸命に努力したい～加賀谷町長



味よし、形よし、がんこさいちずに頑張る、これが目標～嶋崎幸喜さん



皆さんに喜んでもらえるものを作る、ただそれだけです～佐藤秀樹さん



将来できれば施工の方までやってみたいと考えている～林正和さん

町の自然、文化を生かして……小川

司会……町への提案、要望がありましてからお聞かせください。また、町の地域性、文化、町民の気質などでお気付きのことがありましたらお話し願います。

町民の気質は、町外の人はよく見えると思いますが、自分のことのようによくわかりません。ただ内向的なところがある反面、粘り強い一面も持っているように思います。

町では現在、総合発展計画に従って田園都市を目指しており、また、H O P E計画も推進中です。恵まれた自然、文化的な伝統を大切にしながら地場産業の育成に努め、文化の香り高い町にしたいと思っています。一町民として、できる限り協力していきたいと思っています。

町の特徴を再度見直して……永沢

永沢……小川さんが、五城目町は地理的条件に恵まれているというお話がありましたが、私も同感です。

私たちは、毎週水曜日に弓道教室を開いています。この教室には秋田市や能代市、若美町、さらには阿仁方面からも毎週かささず出席する受講生もおります。この受講生たちに五城目町の印象についてたずねたら、五城目町はホ

ッとして霧囲気があると答えていました。五城目町は、町外の人から見ると、温厚な感じの土地柄なのかもしれません。

以前は、五城目町は鉄道の通っていない町としてとり残されたような感じでしたが、今では北秋と南秋を結ぶ重要路線の二八五号線が通っています。この道路を通る車の量は相当なもので、これらの車を一時でよいから町にとどまらせることはできないものではないでしょうか。

現在、家族が車ででかける時代で、例えば角館町は、子供からお年寄りまでいろいろな観光客でにぎわっています。角館町の看板といえば、私には武家屋敷、カバ細工、板や細工の三つしか考えられませんが、温厚な土地柄という点は、五城目町に似ていると思います。しかし、五城目町には県内有数の施設はいっぱいありますが、家族で

町外の気質も取り入れて……石井

石井……五城目町の地域性については、お二人の意見に集約されると思います。さらに付け加えるならば、五城目町は男鹿、十和田、田沢、八幡平などの大観光地へ日帰りで行けるという有利性があり、こ

遊べる場所、家族でおちつける施設がないように思います。例えば、五城目城への階段は、小さい子供やお年寄りにはいきついでです。

そこで、五城目城へ登る特徴的な設備を取りつけられないものでしょうか。また、四渡園にある三十三観音を有効利用できないものではないでしょうか。五城目城に人を引きつけて、ここを起点にした観光を考え、五城目町の特徴をも一度見直して、町の発展を図っていただきたいと思っています。



皆さんは先覚的な仕事に取り組んでいるフロンティア精神の持ち主～伊藤助役

のようなことをもつとPRする必要があると思います。

ここにおいで林さんや佐藤さんは、町外から移り住んだ方たちで、引き続き町にとどまっていたために、

どのような町にしたらよいか考えなければいけないと思います。そして、設計技師や陶芸家だけでなく、ほかの職業の方にもこの町に来て住んでいただくことが、町の文化の発展につながると考えます。

町民の気質について永沢さんが話されたように、温厚な感じを受けます。しかし、温厚がすべてよいと言う訳ではないので、林さんや佐藤さんなど、町外から来た人たちの気質も取り入れていかなければならないと思います。

町では企業誘致を実現してくださいましたが、先端技術産業の企業を誘致できないものでしょうか。このような企業の誘致は、町内で学び育った子供たちを町内にとどまらせるだけでなく、高度な技術を持った方を町に呼ぶことであり、町の発展に大きく貢献すると思われまます。

教育水準が高く、よく働く………林
林……私が五城目町に来る前は東京に住んでいましたが、家の近くに能代出身のクリーニング屋さんがありました。その人に五城目町のことをたずねたら「五城目町はよいと

ころですよ」といわれました。そして「私もいなかへ帰るのであれば、五城目のようなところに住みたい」とも話していました。それが五城目町についての最初の認識でした。

五城目町に来たのは、昭和四十九年の十一月で、雪が降っていました。その当時、雪を一時的に取り除く除雪について、毎年降る雪を毎年同じように処理するのは、進歩がないのではなかったことが印象に残っています。

五城目町は文化活動の盛んな町ということでしたが、私の身近にいる人たちは、ほとんどが大学を卒業しています。町内に大学卒業者がどれくらいいるか分かりませんが、他の市町村に比べて教育水準が高いのではないかと感じています。

もつとびっくりしたことは、十一月、十二月のふぶいている中でも働くということでした。私の家は漁師ですから、夏はみんな昼寝しますし、波がたてば仕事を休むという具合でしたので、町の人はよく働くと思いました。

石井……町長さんは、県森林組合連合会の会長も務められておるので、仕事に閑したことでお願いがあります。現在、ほだ木が県外に流れ出ており、不足してきております。しいたけは、暖かい地方ほど一本当たりの生産量が多く、ほだ木は高く取り引きされますの

で、県外に出て行くものと考えられます。今後安心してほだ木の補給を受けられるようにしていただければ、ありがたいと思っています。

自分の足元を見ていない………佐藤
佐藤……五城目町は、自然環境に恵まれていると思います。仕事をするのであれば、自然環境のよいところで考えていたので、この町に住むことにしました。そして、五城目町は文化的に昔から栄えたところで、こういうよいものが残っているんだなあというところが、だんだんわかってきました。

私だけちょっと違った受けとめ方をしているかもしれませんが、町民というより県民は、自分の足元をよく見ないで、東京の方の文化にあこがれるようです。地元によいものがありながら、それに気づいていないと思います。

農業に従事している方も、「はしり」の物だけを追いすぎないように思います。たしかに付加価値が高く、価格的に有利だからとは思いますが、一番うまいのは「旬」のものであてはまりますが、ほかにないようなもの、自分にしかできないものでなければ注文はきません。

今盛んに村興し、地域興しが話題になっていますが、みんなが同じようなことをしているのであれば、いつまでたってもよい結果はでないと思います。もう少し、じっくりと足元を見直して行くことが、地域興しにも有効であると考えています。

林……私は海の近くで育ったものですから、水が身近にあればいいなあと思っています。五城目町は町の中を川が流れているので、この川を町民が身近に感じられるものにしていただければという気がします。

また、町では生垣に補助金をだしていますが、この制度をもう少し町民がわかるようにPRしていただきたいと思っています。住宅は建物だけでは完成したとはいえませんが、庭やへいなどまわりが整備されて初めて完成したことになると考えていますので、町の人たちに有効的に活用してもらいたいと思っています。

米一辺倒から抜けだせない………嶋崎
嶋崎……五城目町は、地域性という点では恵まれている方だと思っています。農林業の町ですし、昔であれば八郎潟の漁業も行われていました。また、商工業も盛んで、鍛冶などいろいろな職種が現在でも残っていますし、いろいろな意味で可能性のある町と思っています。

町民の気質ということと、さきほど「温厚」という言葉がでてきましたが、私は五城目町の人は昔かたぎというか、がんこというか、保守的なところがあると思っています。

また農家については、失敗を恐れるあまり複合経営を行うより、弁当を持って堅い仕事にでかけるあきらめのようなものを感じます。もう少し、自分の先祖からの仕事に愛着とバイタリティを持って取り組んでほしいと思っています。

本町の場合、米一辺倒という農業から、なかなか抜けだせないでいるように思うので、ほかの産物を組み合わせる複合経営に取り組みやすいように、それぞれの産物のエキスパートを町で選任し、育成してほしいと考えます。そういうエキスパートに、複合経営のけん引的役割を務めていただくのはどうでしょうか。

本質を見える力がが必要………町長
町長……嶋崎さんが可能性のある町とおっしゃいましたが、そのとおりだと私も思っています。ただ、人柄が「温厚」なために、皆さんのように神経を敏感にしないで眠っているような場合や、隣りの人が何も言わないからいいだろうという考え方をした時もあるのではないかと思います。温厚はよい面もありますが、失敗してきた要因でもあった

と思います。皆さんに道路網の整備について高い評価をしていただきましたが、国鉄から自動車の時代に移り、いずれは高速道路の時代になります。現在、役場前の二八五号線は、一日四千台から五千台の交通量がありますが、これで道路網整備が完了した訳ではなく、高速道路が通って初めて一段落となります。用のない人でも、なにげなく町に立ち寄るような施設を造つたらどうですかというご意見がありました。高速道路が通ると、本当に用のある人しか町に入つてこなくなります。

これからは、皆さんの時代になります。温厚であるけれども、要のところは譲らないという気概が必要です。「はしり」も大事にしなければなりませんし「旬」も大事で、本質は何であるかを見える力を養ってください。

町の文化水準は確かに高いと思います。しかし、本町より水準の高い町はたくさんあります。文化水準と言うものは、経済水準、所得水準とも無縁ではありません。両者相関関係にあることを自覚しながら頑張ってもらいたい。

司会……皆さんの今後の目標、あるいは抱負をお聞かせください。
小川……かつては木工の町五

新春座談会



座談会を終えて記念撮影

城目といわれていたが、現在、私たちの業界では後継者不足が最大の問題となっています。業界関係者の方々とともに、後継者の育成に力を注ぎたいと考えています。

永沢……物の時代から心の時代に移行したと言われている。武道である弓道も、心の時代に通じるものがあると考えますので、自分の仕事同様、弓道の普及発展に頑張りたいと思います。

石井……しいたけの需要はまだありますし、これから伸びる可能性を十分持っていますので、よりよいしいたけをもっと多く生産したいというのが目標です。

林……現在は住宅の設計をしています。将来できれば施工の方までやってみたいと考えています。

佐藤……私の目標は、よりよいもの、使ってよかったと言われるもの、皆さんに喜んでもらえるもの、そういうものを作りたい、ただそれだけです。

嶋崎……味よし、形よし、がんこさいずに頑張っていきたい、これが目標です。

司会……最後に、町長からこの座談会のまとめということをお願いします。

“絵”と“詩”になる町づくり……町長

町長……昨年、広域体育館で開かれた「ふるさと文化シンポジウム」で、東京大学の高階教授の講演を聴いて、これまでの町づくりが間違っていたことが確認しました。

高階教授は、江戸の町づくりと浮世絵師安藤広重の版画を例に引き出し、「絵になる町づくり」と題して二時間近く話されました。それによると、江戸の幹線道路は、富士山と筑波山に向かっているということでした。また、前景には水をとらえており、その水は東京湾であり、隅田川であるとしていました。そして、その中に江戸庶民の生業、営みを点散させているのが、広重の絵であると説明されました。

を聴いていて、五城目町のことを話しているのかとびっくりしています。後は、町民の生業、営みを町づくりにどう描き上げるかということだと思っています。生業、営みは朝市であり、お祭りなどに当たると考えています。

私は五城目町の場合、絵になる町づくりは着々と進んでいると思います。ですから「絵」のほかに「詩」という言葉をつけて、「絵と詩になる町づくり」を目指して頑張っていきたいと考えています。

また、行政の重点を生産から販売という方向に移していくべきではないかと考えます。そうすれば、町が進めている都市交流事業にも生かせるものがでてくるかもしれないし、また、交流の中から町の文化水準もさらに高めることができると思います。そして、日本の中の五城目町を確立するために、懸命に努力したい。しかし、これは一朝一夕ではできませんし、役場だけでできることでもありません。皆さんのご理解とご協力をお願いする次第です。

司会……大変つたない司会にもかかわらず、活発にご発言いただきました。皆さんにとりましても、また町にとりましてもすばらしい年であり、またうご祈念申しあげて、座談会を終わりにしたいと思います。

あけまして おめでとうございます

今年是我们这一年

自觉と責任を持つて

小林 孝至（仲町）

明けましておめでとうございます。
輝かしい新春を迎え、謹んで皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

私は、三十八年生まれの卯年であります。大相撲界には、横綱・双羽黒、大関・北勝海、小錦といったそうそうたるメンバーがそろっており、私も、この三人にあやかり良い年にしたいと思っています。願いますと昨年は、バスケットボール青年部において、全国大会に出場することができました。小学校六年から始



小林さんの家は洋品店を営む

めたバスケットボールも十人以上になります。今までは、同世代の仲間と一緒に十分な練習時間をもてたのですが、青年会となるとそうはいきません。年齢の差、職業の違いなどがあり、思うように練習できませんでした。バスケットは、個人競技と違ってチームワークが大切です。お互いに仕事を持っていきますから、日時を決めてもなかなか全員が集まることは無理でした。しかし、試合になると急に力が発揮され、勝てそうもない試合にも勝ち、頭の中で描い

ていたような試合運びになったのは、幸運だったと思います。私事でありますが、県選手団の壮行会で、偶然にも選手宣誓をしました。こうした大勢の中で宣誓をするなんて、自分の一生の中でも忘れられない感動的な出来事になることでしょう。

最後に、私は一年余り、東

健康管理の年

三浦 敏弘（畑町）

「初日掌に受け再起の顔みがく」—古い句であるが、新年を迎えるに当たり、今年こそはと決意を新たにしたいとこの駄作である。

まず今年は、健康管理である。根っからの甘党である私は運動不足が加わり、ここ数年の健康診断で肥満度は常に一〇%を超えている。昨年は一・一%という不名誉な数字を背負い、また基準値を上回

京に就職していました。故郷を離れてみると、約四百九十年の伝統をもつ朝市と町の象徴としての森山、そして地域の友人、親類などのつながりの大切さを再認識しました。今年は、昨年のバスケットを糧として自觉と責任を持ち、五城目町の一員として、新しい分野に挑戦していきたいと思っています。

以来、毎年のようにこんな気持ちで新年を迎え、内容の充実した一年を送ろうと目標を定めてはいるものの、振り返ってみれば何ひとつ実現出来ずに過ぎた一年であったことに気がつき、我ながら意志が弱く、実行力のない人間であることに、ただ嘆くばかりである。昨年も然りである。そして、不思議にも年とともに氣迫を失い、挫折してしまった自分が情けなく、痛恨の極みである。



信用金庫で管理職の立場にある三浦さん

元来、運動神経が良く心身ともに疲れやすい自分の体力に合わせ、まず甘いものをひかえ、「ラジオ体操」「なわとび」「歩く」の三つを基本に、これまでの運動不足を少しでも補い体を鍛えつつ、減量に努めたいと思う。そして、将来足腰が丈夫で兎のようにピョンピョン跳ねまわることが出来る身軽な体で、快適な生活が送れるよう常に体を動かすことを心掛けていきたいと考えている。

る数値や境界型の判定が出るなど、極めて厳しい診断結果であった。

これらは、すべて運動不足が主因で、今後ぜい肉を落とす標準体重（五四・九キロ）まで持っていく以外になく、この一年気力との戦いに挑まざるを得ない。

この町に育まれて

奈良 朋子（広ヶ野）

この町に生まれ、育ち、嫁いでなおこの町で育まれながら、三回目の当たり年を迎える事が出来ました。

二人の子供にも恵まれ、主人、主人の両親に囲まれて、平凡でつましやかな暮らしながら、この家庭は私にとって何物にも代えがたい宝物と

思っております。そんな宝物を持ち合わせながら、欲張りなのではないでしょうか。今の私は、もう一つの生きがいを求めて懸命になっております。「いらつしやい



町内のデパートに勤める奈良さん

お店に来てくださる方々の大半がお顔なじみだった事。「頑張って」と元氣付けてくださる親しいお客様だった事。おかげで、半月もしたら氣苦労で大分減量されスマートになっている予定が大きな誤算に……！今、とっても楽しく充実して働かせて頂いております。

それ、この長源での人々（お客様）との触れ合いを通して、地域の人々に微力ながら恩返しが出来、また自分をも人間として少しでも成長させ、愛する子供達に、社会人としても何かを伝えてあげる事ができたら……！そんな思いで、人生の折り返し地点の年頭をうさぎの如く、蹴り上げたいと念じております。

兎の年

本間 恭子（舘越）

今年、私は六回目の年女である。年女のことは気にもとめていなかったが、あと余程長生きをしない限り、七回目も八回目もめぐってこないから今年はお目出度い年である。

なり、一度外を見た兎はおとなしく箱に納まっていなかった。箱をこわし飛びだしてしまった。みんな探したが、二度と姿を見せなかった。

それに兎の年は飛躍の年でもあるという。辞書を引いたら、大胆に進む、跳びあがる、にわか地位の進むこと、とで

た頃で、学校によく訪ねてきた人に、兎のことを話したら「本間さん、兎ほど馬鹿な動物はえねしよ。犬や鶏は育てられた主人の顔はよく覚えて

はまらない。夫が一人子なので、姑が子供をたくさん産むようにと、お産の度に兎の肉を食べさせてくれた。そのためか七年の間に四人も産んだ。

私は兎年生まれであつたうえ、いろいろな方々の情けで教師になったので、ショックであつた。生家は貧しく、兄弟も多く、上の学校に行く余裕などなかった。



教師を32年間勤めた本間さん

新潟医大の（あとで秋田医大の学長になられた）伊藤先生が四年間毎月妹さんに学資を届けさせてくれた。師範の学資は、当時名古屋の脳病院の院長・池内先生が毎月学校に送ってくれた。「私もあなたの祖父からお世話になったから心配しないで勉強しなさい」と励まされうれしかった。

れた。当時お世話になった方では、秋田医大の学長をされた伊藤先生の妹の伊藤操さんだけになってしまった。昨年の夏、ささやかな金婚式をしたが、一番先にお祝いをしてくださり喜んでくれた。

私は幼い時から医者には縁が深く、母方の祖母の生家が佐藤という医者であつた。師範時代には、佐藤さんの姉が古賀病院の奥さんだったので子供のようにかわいがられ、

題する親子の兎の置物を買ってくれた。テレビの上に乗っているこの兎を眺めていたら、親子の語らいが聞こえてくるような気になり、若い頃お世話になり、かわいがってくれた恩人や恩師の顔が浮かんでくる。私は前に書いた馬鹿兎にだけはならないように、恩をうけた方々のことは忘れな

小学校の恩師成川先生に勧められて受験、合格したら両親は喜びよりも驚き、心配し

ていきたい。新春を迎えた親子兎の目は一段と和やかに輝いている。私も「お陰様」を忘れない年にしたいものである。

六十年間を振り返って

浅野 京子（大川）

今年はずきぎ年です。月日のたつのは早いもので、私が生まれてから早くも六十年。夢のようです。

六十年を振り返って見ると、私が三年生の時、父と死に別れ、母親は自分一人の働きで私達を育ててくれました。私の家は床屋です。

母の難儀は、それは大変なものでした。私達があまりにも小さすぎたからです。でも、町の人達のおかげで、なんとか生活してこられた事を心から感謝しております。その母も三年前に亡くなりました。

私はこの大川に生まれ育ち、根っから大川の住民です。私は二十四歳の時に結婚しましたが、一年足らずで離婚。女の子一人育て、一生懸命頑張ってきました。気がついて見ると、もう私も還暦を迎える年になっておりました。でも、若い時の難儀は、そんなに辛いと思わずに過ごしてきました。

今は娘も結婚して孫もでき、楽しい毎日を過ごしており、とっても幸福です。これから、若い者達にさらわれたい良いおばあさんになりたいものです。



家業の床屋の仕事を手伝う浅野さん

のです。それに、よい友達にもめぐまれ、お茶を飲んだり、外へ出て遊んだりする事もよい事だと思っております。また、好きな旅行にも出来るだけ行きたいと思っております。今までは、家庭の事ばかり考えて頑張ってきました。この

れからは、自分の幸福は自分で作って行きたいと思っております。今日この頃です。まだまだ忙しい時は、私も店に出て仕事をしなければと考えていますので、健康にも十分気を付けて、よい余生を送りたいものです。

カメのようなウサギで...

工藤 穂奈美（内川小学校）

今年はずきぎ年生まれの私の年です。私にとって、うさぎのように大きくジャンプしなければならぬ年です。なぜなら、私は小学校を卒業して、中学校へ進学するからです。私は期待と不安の中学校生活のスタートのために今年の目標をたてました。

一つめは、「勉強をがんばる」です。私が六年生でよかったのは算数です。特に計算をがんばりました。でも中学校では、数学に変わり、いちだんと難しくなります。また、不得意な教科もそうなるので、毎日予習、復習をなまけないでやり続けようと思います。

二つめは、「スポーツをがんばる」です。私は四年生からミニバスケットボールを続けてきましたが、去年は念願の一勝ができてうれしかったです。

私はいつも、とりかかりが遅く後回しにしがちです。宿題なども「朝やればいいや」と思い、朝に大急ぎでやったりします。また、あきつばいので、勉強やお手伝いでもいやになるとすぐやめてしまします。中学生になってもそんな状態ではたいへんなので、今年のうちに直しておきたいと思っています。

「うさぎとカメ」の昔話では、負けるはずのないうさぎがカメに負けました。うさぎが年生まれの私は、決してそんなうさぎにならず、カメのように遅くても一步一步確実に休まずにジャンプするうさぎになり、三つの目標をめざしてがんばりたいと思います。さあ、ジャンプ、ジャンプ...



今年、中学生になる工藤さん

今年は私たちの年です

謹賀新年

今年も、何卒よろしく
お引き立ての程お願い申し上げます。

酒専門店

タカツ

五城目町中央通り
(52) 2262

毎月第1・第3日曜日は全町除雪デー

除雪作業にご協力を

町では、除雪作業をより効果的にするため、毎月第一、第三日曜日を「全町除雪デー」に定め、町内の皆さんのご協力をお願いすることにしました。期間は一月から三月まで、町や県では、冬期間の交通、住民生活に支障をきたさないように、万全の除雪態勢をとっています。しかし、除雪作業の回数が多くなると、道路の両側には雪がたまり、また道幅も狭くなります。このような道路状態ですと、機械による除雪作業が非常に難しく危険です。町内会の皆さんの共同作業で除雪を行っていただくことにしたものです。

町道の除雪は、国道、県道に通ずる路線やバス路線、通学路など主要な幹線道路から随時行い、できるだけ早く各地区の道路に除雪車が入れるような態勢をとっています。迅速、効果的な除雪ができるように、次のことにご協力をお願いいたします。

- ③ 磯ノ目大橋上流・東磯ノ目町内側の馬場目川
 - ② 路上に物を置かない
 - ③ 道路上に排雪しない
 - ④ 路上へ雪の落ちる屋根の場合は雪止めをつける
- 特に路上駐車は、除雪の邪魔になるだけでなく、除雪できない場合もあります。路上駐車は絶対しないでください。また、幅四メートル以下の狭い路地などは、除雪車が入れませんので、町内の皆さんで除排雪を行うようお願いいたします。

① 路上に駐車をしない

町内10業者に除雪作業を委託

町や県では、冬期間の交通を確保するため除雪態勢に入っています。

町が除雪する道路は三百五十路線で、その総延長距離は約九十六キロ。ブルドーザーやグレーダなど十一台の除雪車が、早朝三時から出勤できるようにになっています。

また、町の除雪車で回りきれない路線については、町内の建設業者などに除雪作業を委託しています。

① 雀館（町民センター横）
② 旧役場前の馬場目川

同組田線、下山根線、上山内荒町線、同大宮線、上広ヶ野線、和田線

▽ 沢忠林業 沢田石忠作

54-2532

金ヶ沢線、湯ノ又日ノ沢線、金ヶ沢消防支線、湯ノ又川向中央線、同川向環状線、同川向環状支線、同後田線、同上川原線、同後田支線、小川口支線、湯ノ又羽立線、同羽立支線、小川口線、浅見内谷地田線、同高樋線、同谷地田中線、同五輪塔線、同堂ノ下線、同川端線、同後田線、同下ノ山線、同札ノ前線、同家ノ沢線、同札ノ前線、同上ノ山線

▽ 赤坂建設 赤坂賢治

75-2749

大川上湯端線、同稗田尻線、同湖東線、同今戸線、同新住宅線、同新住宅支線、同今戸支線、同西住宅小路線、同西屋布線、同東屋布線、同下夕川原線、同寺小路線、同大樋線、同大川小学校通線、同下樋口上線、同大川関合線、曙一丁目線、同二丁目線、同三丁目線、石崎沼田線、同裏通線、樋口下樋口線、四ツ屋中谷地線、谷地中四軒町線、西野海老沢線、原島線、谷地中樋ノ下線、同嵐町線、同三軒町線、西野上線、同四ツ屋川端線、同田中線、同八幡前線、同下村部落線、同下村線、同矢場崎線

▽ 今村建設 今村留治

52-2558

栄小路線、しのぶ通り線、梅林小路線、鶴ノ木稲荷線、七倉種沢線、寺小路線、仲町通線、同小路線、電話局前通線、入船通線、七倉線、線香座線、電話局裏小路東線、同中線、同西線、川寺小路線、商工会館前通線、彦太郎小路線、文化小路線、雀館北線、館町下線、同上線、中泉田住宅線、宮花線、矢場崎岡本線、同南線、同東線

▽ 金野組 金野 勇

53-2850

水沢線、同黒山線、同馬道線、松樹院前線

▽ 高千建設 小玉誠一

54-2762

落合旧県道下線、同川端線、同旧県道上線、同消防線、北村線、北口線

▽ 畠山石油店 畠山徳次

52-3022

田中線、高崎上樋口線、同里下線、同里下東線、同下村住宅線、同下村支線、同下村旧県道線、同下村線、同小沼線、同下川原線、同槐線、雀館東線、中高崎線

▽ 佐々木工業 佐々木喜久也

53-2225

小野台線、同中線、寺庭恵線、同中線、同柳沢線、同上村線、中村後村線、同巡査小路線、同田山線、同田山支線、同権兵衛支線、同権兵衛線、大吹

沢線、同支線

▽ 佐々木建設 佐々木茂夫

53-2449

保呂瀬線、恋地下丁線、同中丁線、同中支線、同神社線、同上丁線、坊井地線、杉沢中通線、同野木場線、同下段消防線、同下通線、同中央通線、同上台通線、同旧軌道線、恋地線

▽ 伊藤産業 伊藤幸三郎

54-2206

大手線、富田下川原線、富田線、同寺沢線、同上小路線、同雷線、同杉野線、八田下線、同上線、長面線、御蔵下上線、台線、脇村旧県道線、脇村線、黒土線

あけましておめでとうございます

今年もよろしくお願い申し上げます



まごころかよう 五城目信用金庫

本店 52-2115 八郎湯支店 75-2544 若美支店 0185-46-2315 飯島支店 45-8024

ねねき通信

年金の支払月

国民年金は、昭和六十一年四月から、すべての国民に基礎年金を支給する制度になりました。それまでは、国民年金と厚生年金から別々の支払日に年金が支給されていましたが、新たに基礎年金を受ける人からは、厚生年金の支払月にあわせて毎年二月、五月、八月、十一月に支給されることになっています。

すでに国民年金（通算老齢年金を除く）を受けている人の支払月は、今までどおり三月、六月、九月、十二月（老齢年金は十一月）です。



スポーツコーナー

(敬称略)

〔小学校の部〕
 ▽男子団体①五城目小A②五城目小B③杉沢小A、五城目小C
 ▽女子団体①五城目小A②五城目小B③五城目小C④杉沢小
 ▽五年以下男子単①猿田(五小)②石川(杉小)③朝野(五小)、渡部(同)
 ▽五年以下女子単①一関(五小)②石川(杉小)③伊藤(五小)、佐々木(杉小)
 ▽六年男子単①一関(同)②一関(同)③千田(同)、伊藤(同)
 ▽六年女子単①猿田(五小)②村上(同)③高橋(同)、館岡(同)
 (中学校の部)
 ▽男子団体①五一中A②五

全町卓球大会
 十一月二十四日、十二月七日、広域体育館

一中B③五一中C④五一中D
 ▽女子団体①五一中A②五一中D③五一中C④五一中B
 ▽一年男子単①小林(五一中)②原田(同)③小林(同)、金野(同)
 ▽一年女子単①渡部(五一中)②猿田(同)③伊藤(同)、佐藤(同)
 ▽二年男子単①畑沢(五一中)②松田(同)③佐々木(同)、工藤(同)
 ▽二年女子単①石井(五一中)②阿部(同)③石井(同)、松橋(同)
 (一般の部)
 ▽職場対抗①五城目町役場②五城目商店会③五城目信用金庫④五城目警察署
 ▽男子単①千田(五城目町役場)②三戸(八郎湯町役場)③遊佐(秋田大学、一関(秋田銀行)
 ▽女子単①猿田(中央観光社)②近野(五城目)③一関(五城目)、猿田(五城目)
 ▽男子複(一般)①千田、村上(五役、秋商)②遊佐、一関(秋大、秋銀)③遠藤、川上(金農、五高)、伊藤、千田(秋高、秋商)
 ▽三十歳代単①三戸(八郎湯町役場)②一関(五松堂)
 ③今村(今彦)、松橋(秋田市)
 ▽四十歳代単①猿田(猿田商店)②工藤(五城目信用金庫)③佐藤(中川原)
 ▽五十歳代単①加藤(五城目警察署)②福島(福島電気)
 ▽家庭婦人①近野(五城目)②一関(五城目)

お知らせ

アンケートに協力を

住まいづくりの資料に

町と木造住宅産業推進部会では、町内の皆さんの意見を取り入れた住まいづくりを展開するため、住宅に関するアンケート調査を行います。

この調査は、良好で快適な住まいづくり推進の一環として行うもので、町内の全家庭が対象となります。アンケート結果は、部会で行っている五城目らしい住宅プラン(市街地型、集落型、郊外新興型)の中に取り入れ、今後の住まいづくりの基礎資料として活用されます。

調査期間は一月十六日(金)から一月二十二日(木)まで。調査期間中に町政協力員を通じてアンケート用紙が各家庭に配付されますので、ご協力をお願いいたします。

アンケートについての問い合わせは、役場建設課(☎52-2100)へお願いします。

ふれあい広場開催

町内の児童・生徒対象

冬休み期間中の子供たちのために「冬休み子どもふれあい広場」が開かれます。

▽期間 一月十二日～十四日
 ▽時間 午前十時～午後三時
 ▽場所 大川農村環境改善センター

▽対象 町内の児童・生徒

▽内容 町内の児童・生徒
 ・十二日ゲーム遊びコーナー、児童図書とマンガコーナー、イラストコーナー
 ・十三日いならわ利用コーナー、児童図書とマンガコーナー、イラストコーナー
 ・十四日座禅とお茶のコーナー、お茶の会、児童図書とマンガコーナー、イラストコーナー

無料健康診断
 財団法人日本公衆衛生協会では、原爆被爆者二世の健康診断を無料で行います。
 なお、受診にあたっては、各医療機関の外来診療日や受付時間が異なりますので、希望する医療機関または、保健所五城目支所(☎52-3145)にお問い合わせください。
 ▽実施医療機関 秋田赤十字病院、中通リハビリテーション病院
 ▽対象者 両親のどちらかが被爆者である方
 ▽実施期間 一月十六日から三十一日まで

ダイヤル市外通話
 NTTでは、昨年の七月十九日(土曜の日)から、土曜日のダイヤル市外通話料を平日昼間の約四割値下げしています。ご利用ください。

土曜日も割安です

テレホンサービス

町長が
 年頭の
 あいさつ
 「テレホン広報
 ごじょうめ」では、
 お正月の三箇日間、
 加賀谷町長の年頭
 のあいさつを放送
 します。

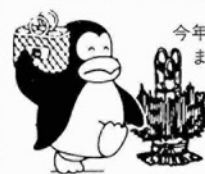
52局の4141番

卯年新春

新年のごあいさつに甘味
 うぐいす餅、さくら餅をどうぞ
 一同、まごころサービスでご来店を
 お待ち申し上げております

お菓子の しば友
 五城目町古川町 電話52-3238

あけまして
 おめでとうございます



今年もよろしくお引立下さい
 ますようお願い申し上げます

CVS
 あらかわ

五城目町神明前 T 52-3903

大河兼任のなぞ

19

兼任の戦略(上)

小野 一二



大川石崎地区

当時の在地の武士は、その土地を開いた大きな百姓であった。季節によって農業に従い、いざ戦いがはじまると家ノ子や郎党を集め、所領内の百姓も武装させ、戦場につけつけるといふ具合であった。

地方でのこのような勢力が、中世になると戦国大名、小名やその配下の武将となっていく。五城目付近では、馬場目・山内・砂沢・浦などのいわゆる中世城館の主となる。

兼任が鎌倉に対して反乱をおこしたのは、文治五年(一一八九)十二月である。これは旧暦だから、今だと一月から二月にかけての冬のさ中ということになる。いちばん寒さがきびしく、

雪も深い時期に当たる。厳冬は、いくさをするには最も不適当と思われるが、それは現代のわれわれの感じ方である。

冬は農休期で、男手はそつくり武力となる季節であった。兼任はそうした戦力を百パーセント動員したはずだ。

関東とそれ以南からの優勢な軍勢と戦うとすれば、北国の冬の寒さと雪は、天の与えた味方といえる。鎌倉軍はなれない寒さと雪に戦闘能力を半減させられたであろう。

寒さと深い雪に遠征軍が悩ませられた例はいくつかあげられるが、前九年の役と後三年の役での、源頼義と源義家の例でもはっきり

している。鎌倉の頼朝は、厳冬の出羽国での反乱の報に、かつての源氏の苦戦を思い出し、にがい表情をかくさなかつただろうと思われる。兼任も、そうした心理的ゲリラ戦ともいふべき作戦のもとに、行動を開始したのではないだろうか。

男鹿島から新屋の辺りに由利維平を追撃したのは、海路であつたとさきに書いた。宇佐美平次と御家人を討つために、津軽に移動したのも海路であつた。こうしたことについて、冬の航海を危ぶむむきもある。

しかし、冬の海が荒れるのは毎日ではない。天平五年(七三三)律令政府は、出羽棚を一举に酒田付近から秋田村高清水岡に進出させたが、冬のさ中の旧暦十二月二十六日であつた。由利棚を中継点としての舟航による北進と思われる。

当時の航海は、岸近いところを陸地にそつて進むものであつたから危険は少なかった。

大河氏は男鹿島・八郎潟の水上勢力でもあり、津軽十三湊への航路は、日本海沿岸の主要航路であつたから、冬であつてもこの海上の道をとるのは当然のことであつた。

お誕生
おめでとう
ございます
(敬称略)



おめでとう
申し上げます
(敬称略)

島崎知美	長女	10月30日	小浜ヨス	86歳	今町	11月9日
清治・春美	長男	大川一区				
石川慶一	長男	11月1日	廣瀬テツノ	82歳	昭辰町	11月10日
重光・美紀子	杉沢	11月2日	石井喜悦	38歳	紀久栄町	11月14日
加藤優香子	長女	11月7日	近藤マル	82歳	浦横町	11月15日
宮城慧	長男	11月7日	加賀谷三郎	62歳	黒土一区	11月15日
満・ちえ子	二男	11月7日	畑町	77歳	大川一区	11月18日
目黒健志	二男	11月20日	伊藤マサ			
洋・ひとみ	二女					
田口和子						
一美・京子						

町の人口と世帯

12月1日現在

人口	15,369人	(-26)
(男)	7,332人	(-11)
(女)	8,037人	(-15)
世帯	3,938世帯	(0)

※ ()内は前月との比較

工藤鉄三郎 82歳	上田町	11月23日
北嶋洋子 37歳	大川四区	11月23日
館岡重蔵 66歳	下高崎	11月26日
本間サメ 85歳	館越	11月27日

伝言板

お年寄りに年賀状

五城目小学校

五城目小学校では、次の目的で児童会が中心になって、学区内のお年寄りに年賀状を出す運動を進めています。

①地域社会の一員としての自覚の育成
②町の産業や文化を築いてこられた方々に感謝する心の育成

今年度は「七十歳以上で、五城目小学校学区内に住む方々」を対象にしました。子供たちは一生懸命がんばりましたが、もし失礼がありましたら、ご容赦のほどをお願いいたします。

大川婦人会研修

▽日時 一月十五日 午前十時から

新春将棋大会

町公民館森山分館では、森山地区新春将棋大会を開催します。大会には、だれでも参加できます。

▽日時 一月三日(土)、午前十時

▽場所 森山分館(岡本一区)

▽会費 一人千円